

2017.5.1 08:20

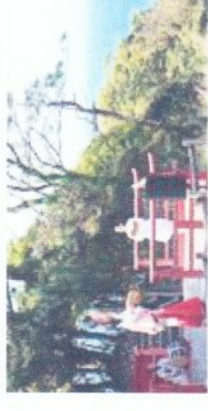
## 静御前の一生を舞で再現 生誕の地・京丹後市、海が見える絶景の舞台で

源義経との恋物語で知られる平安時代末期から鎌倉時代にかけての白拍子、静御前の生誕地とされる京都府京丹後市網野町の静神社近くの「踊り舞台」で、同市弥栄町の道の駅「丹後王国 食のみやこ」を中心に活動する女性らの劇団、丹後七姫劇団のメンバー3人が舞などの舞台を披露した。

踊り舞台は高台にあり、海が見える絶好のロケーションにある。同劇団の本田綾乃さんが約1年前、この舞台を訪れた際にすばらしい環境に感動し、今回の公演を企画。本田さんが台本を書き、舞を舞う中心的な役割を果たした。桑鶴マミヤさんが語りを、豊嶋実那子さんが太鼓をそれぞれ担当した。

公演名は「しずかの奏（かなで）」。義経との出会いと別れ、そして都から鎌倉に送られて源頼朝と北条政子の前で最後の舞を舞い、生まれた子を殺された傷心のまま故郷へ戻るまでを演じた。舞台付近では、「食のみやこ」からバスで訪れた観光客や近くの住民らが本田さんの美しい舞を見つめていた。

本田さんは「静御前の伝説の残る場所で踊れて光栄。これからも地域のためになりたい」と話していた。



海が見える舞台で舞を披露する丹後七姫劇団のメンバーら＝京丹後市網野町

©2017 The Sankei Shimbun & SANKEI DIGITAL All rights reserved.